

〔Ⅱ〕 次の(A)～(C)の各文の(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。

- (A) 足利義満の時代には、五山・十刹の制がほぼ整い、室町幕府の保護のもと、禅宗のなかでも臨済宗が繁栄した。禅宗は、日本の美術にも大きな影響を与えた。4代将軍の(1)が相国寺僧の如拙に描かせた「(2)」は、禅の精神風景を表現した作品として有名である。幼くして相国寺に入り、その後、明に渡って中国水墨画の技法を学んだ(3)は、日本の水墨山水画を完成させ、「秋冬山水図」などを制作した。また、狩野正信・元信は水墨画に伝統的な大和絵の手法を取り入れて平明で装飾的な様式を打ち出し、新しく狩野派を興した。(4)方丈に描かれた障壁画の中の花鳥図は、狩野元信筆と伝えられている。
- (B) 戦国時代には、元信の孫である狩野永徳が現れた。永徳は織田信長、豊臣秀吉といった権力者の意向に応え、安土城や聚楽第、大坂城などの障壁画制作に携わった。また、信長から(5)へ贈られた「洛中洛外図屏風」も、永徳の作品とされている。さらに、秀吉が長男鶴松の菩提寺として建てた祥雲寺の襖絵は、(6)らが描いたとされ、現在は「智積院襖絵」としてその一部が残っている。彼がその後に描いた「松林図屏風」も、水墨画による作品として名高い。
- (C) 江戸時代には、永徳の孫にあたる(7)が幕府の御用絵師となり、多くの門人を育てた。一方、京都では俵屋宗達が出て、大和絵をもとにした装飾画に新様式を生み出した。また、大和絵系の(8)は朝廷のお抱え絵師となって土佐派を復興させ、土佐派の門人である住吉如慶は住吉派を再興した。その子住吉具慶は江戸に招かれ、狩野派に加えて幕府の御用絵師となって活躍した。この頃、代表作「(9)」で知られる菱川師宣が浮世絵版画を創始し、その後(10)が1枚刷りの多色刷木版画である錦絵を完成させ、「弹琴美人」「ささやき」「風俗四季歌仙」などの作品を生み出した。

〔語群〕

- | | | |
|------------|------------|------------|
| (ア) 足利義政 | (イ) 毛利元就 | (ウ) 瓢鮎図 |
| (エ) 東洲斎写楽 | (オ) 久隅守景 | (カ) 婦女人相十品 |
| (キ) 足利義教 | (ク) 雪舟 | (ケ) 土佐光信 |
| (コ) 寒山拾得図 | (カ) 狩野探幽 | (シ) 上杉謙信 |
| (ス) 市川鯉蔵 | (セ) 明兆 | (ソ) 南禅寺金地院 |
| (タ) 見返り美人図 | (チ) 妙心寺退蔵院 | (ツ) 周文 |
| (テ) 土佐光吉 | (ト) 海北友松 | (ナ) 喜多川歌麿 |
| (ニ) 長谷川等伯 | (ヌ) 周茂叔愛蓮図 | (ネ) 鈴木春信 |
| (ノ) 武田信玄 | (ハ) 足利義持 | (ヒ) 狩野長信 |
| (フ) 土佐光起 | (ヘ) 大徳寺大仙院 | (ホ) 狩野山楽 |